

# 大村市立三浦小学校の「ヘツカニガキ（辺塚苦木）」について

三浦地区振興会 日泊辺塚苦木保存会 広報部長（再発見者） 迫頭 裕二

「ヘツカニガキ（辺塚苦木）」は、九州西岸では長崎県が北限となっている樹木で、長崎県では諫早市飯盛町で見つかったヘツカニガキが北限にある大木ということで県指定天然記念物（昭和53年）となっています。

その後、昭和56年に地元の植物研究家 上野二巳さんが飯盛町よりもさらに北に位置する大村市の日泊町帯田地区でヘツカニガキの自生地を発見し、保護のため昭和56年2月22日に当時の卒業生等によって三浦小学校に移植をされました。

移植の件は三浦小 学校要覧の「学校の沿革概要」及びホームページの「学校の沿革」に掲載されており、インターネットで「ヘツカニガキ 大村」と検索すると、この三浦小の「学校の沿革」が表示されます。

ただ、そのことはその後の人の入れ替わり等によって長年忘れ去られていましたが、約40年後、令和の時代になり、ようやく日泊町帯田地区のヘツカニガキ自生地及び三浦小学校に移植されたヘツカニガキが再発見されました。

※これを受けて、令和4年に「三浦地区振興会 日泊辺塚苦木保存会」が発足しました。

令和5年5月現在、三浦小学校のヘツカニガキは運動場奥斜面の上に確認できており、文字は消えかけてはいるものの当時設置された説明板が樹の根元付近に建てられています。

ところがこの説明版は目線よりもかなり上にあり、かつすぐに草に覆われて読めなくなるので、できればもっと下の読めるところに、児童向けの説明版を設置したいものです。

